地方創生推進交付金事業等の事後評価に係る意見・提言等

	計画名	意見・提言等		
		※総合戦略の施策に効果があったか	※実施事業の効果があったか	※今後の対応に改善策の提言等
地方創生推進交付金	①大船渡市地域未来創発センターによる地場産業高度化・人材育成計画	・新たな産業展開を図る観点からＩＴに関する市民の抵抗感を下げる取組として重要。 ・一方、ＩＴ作業員の育成という視点ではなく、地理的不利性を感じさせないＩＴの特性を活用して、需要の大きい大都市部に訴求する商品を作り出せる人材を輩出する発想が必要ではないか。	・ＩＴを活用した仕事の幅を広げるという効果は見られるが、このことが地理的不利性を解消することに必ずしもつながっていないのではないか。 ・大船渡市から外に売り出せる仕掛けにつなげられていないのではないか。 ・①ゆめふなと②くるくる大作戦③OOFUNTO VALLEY④PLAY KESEN GOの４つのプロジェクトに関する「実施状況」、「その成果と評価」をそれぞれの項目ごとに示すべきである。 ・産学官地域課題研究会を立ち上げて、人材育成プログラムの推進を図ったとあるが、参加者が７人と少なく、また、４つのプロジェクトが創出されたとあるが、果たして大船渡市民にとって必要なプロジェクトとした内容なのか疑問が残る。	・大船渡市でＩＴ人材を輩出するということの目的や方向性を整理し直した方が良いのではないか。 ・他市との差別化についても意識しつつ、都市部から資金流入する仕組みを意識した取組を考えた方が良いのではないか。 ・参加者を増やすための方策が必要である。
	②大船渡ふるさと交流センター発「三陸マリアージュ」創出・展開計画	・都市部に搾取されない仕組みが必要。その際、三陸大船渡にこだわりすぎず、一部は他の産地のものでもよいから、高い品質のものを生み出すというシビアさも必要ではないか。 ・三陸マリアージュのブランドコンセプトとして、御用聞き、食のラボと食の探検隊に基づいて、商品開発を進めるとあるが、実際に対象とする食材と商品についての情報に乏しい。	・首都圏における取扱事業者を広げる仕組みは良い。 ・ＰＲ力のある取扱事業者を見出していくことも必要。 ・一方で地元事業者のＩＴスキルの低さを埋める仕組みを整えたことは収穫。	・安い値段で食材を都会に卸す仕組みにせず、付加価値を大船渡市側で取れる仕組みを引き続き検討する必要がある。 ・全体的には前進していると思うが、近年の小家族化に伴う少数多品種商品の開発に努めるべきと思う。
	③三陸沿岸に最適な周年生産施設型農業による夏イチゴ産地化計画	・移転元地等の低未利用地を活用して高収益型の農業展開を目指す動きは素晴らしい。	・間伐材と夏イチゴ産地化の連携について、木骨ハウスだけでなく、例えばバイオマス燃料の活用や、肥料等での利用など、新たな連携イメージを持ってもよいのではないか。	・トマト等も含め、耕作放棄地をはじめとした低未利用地のより一層の展開を目指し、営農者の意向も把握しながら活用可能性のある大規模用地をあらかじめ想定しておくことが考えらえる。 ・素晴らしい取組である。今後は、スイーツ化や観光農業化を図ってほしい。
	④スポーツ・アクティビティを中核とした体験型交流創出・展開計画	・ＢＭＸのように他市町村ではあまり例がないところに着目したことは良い。この軸はぶらさずにしつつも、宿泊施設等の閑散期等を活用しながら、赤崎グラウンド等とも連携しつつ他の普遍的なスポーツ活動等への波及を考えてもよいのではないか。 ・上記に関連して、「スポーツ交流拠点形成推進計画」との相互波及効果の整理や、一体化について検討してはどうか。	・特になし。	・全国的な視点で他の施設と比較した際の優位性を徹底的にアピールするなどして、ＢＭＸ関係者をはじめとする潜在的な施設利用者への訴求を継続する必要がある。 ・スポーツ・アクティビティを中核として、体験型交流を図ることは重要である。 ・体験者やプログラム参加者の宿泊施設が１か所しかないように思われるが、地元の民宿や旅館等との連携を図る必要がある。 ・家族連れでスポーツ施設に来ることは想定されるが、施設を使用しない方々に対する観光案内等のプログラムを走らせることにより、リターン者が増えるのではないかと思われる。

	計画名	意見・提言等		
		※総合戦略の施策に効果があったか	※実施事業の効果があったか	※今後の対応に改善策の提言等
地方創生拠点整備交付金	①碁石海岸観光拠点化推進計画	・碁石海岸が大船渡市の観光資源としてどういう位置付けのものなのか、それは全国の他の類似観光資源と比較してどういう特徴があるのかなどをよく分析した方が良いのではないか。（例えば、浄土ヶ浜と比較して碁石海岸は何が良いのかといった視点を整理。）	ー	・大船渡市内全体の観光資源を現地でしっかり情報提供し、個人旅行者等の興味ある人は別の現地に誘導しつつも、観光バス等で訪れる人にとってその場で飲食やお土産購入、体験等がパッケージで可能としておく必要があるのではないか。 ・高台地区もさることながら、低地部の振興も併せて考えるべき。その為には、浜の仕事体験工房の整備に努めるべきと思う。 ・更なる集客を求めるのであれば、リピーターを集めることにつながる方策を考える必要がある。 ・大船渡市に寄港した豪華客船の観光客は、ほとんど大船渡市から他地域（遠野市や釜石市等）に、観光に赴くと聞いている。乗客を大船渡市に留めることにつながるプログラムを考える必要がある。
	②椿の里おおふなと拠点形成推進計画	・なぜ大船渡市で椿なのかについて全国的に訴えるとともに、そのことを意識した展開をするべきではないか。	ー	・椿サミットに向けて、復興を印象付ける椿産品や椿を活用した取組を進めてはどうか。 ・椿油のみならず、椿の多様な活用を図るべきであり、今後の対応課題に記述されているような課題に果敢に取り組む必要があると思う。 ・大船渡市立博物館との連携を図る必要がある。
	③スポーツ交流拠点形成推進計画	・「スポーツ・アクティビティを中核とした体験型交流創出・展開計画」との相互波及効果の整理や、一体化について検討してはどうか。	ー	・冬に降雪が少ないという強みに加え、合宿支援補助を含めたパッケージ的な支援策として十分かどうか、利用者のニーズに応えた展開を進められているとよい。 ・赤崎グラウンド利用者数は、目標値に達していないものの増加傾向にあることは望ましい。その一方で、宿泊者数が少ないことが課題として残る。 ・道路の整備が大幅に進み、日帰りでの利用は、今後、ますます、増えると考えられる。このような状況下、イベントの開催数を増やすことにより、利用者や収入が増加すると思われる。 ・旧甫嶺小学校に整備している甫嶺復興交流推進センターとの連携を図ることは重要なポイントであると考える。

地方創生推進交付金事業等の事後評価に係る質問等

	計画名	質問等	回答	担当課等
地方創生推進交付金	①大船渡市地域未来創発センターによる地場産業高度化・人材育成計画	・産学官地域課題研究会を立ち上げて、人材育成プログラムの推進を図ったとあるが、参加者が７名と少なく、参加者を増やすための方策はあるのか。	・研究会の参加対象者は、会則において①大船渡市②明治大学サービス創新研究所③大船渡テレワーク推進協議会④スマートキャリア研究会⑤大船渡市内事業所⑥その他座長が認める事業者―に属する者としているので、これらの団体等に所属・該当する方であれば参加可能である。 ・参加者（構成員）数を増やす取組は、現時点で検討していないが、対象要件に合致する方から希望があれば対応するようにしている。	産業政策室
		・ＩＴ活用型課題解決型人材の育成と実証活動の展開として、４プロジェクトについて、どの媒体で知ることができるのか、市民への周知状況はどうなのか。	・４プロジェクトの進捗状況は、３月に成果発表会を開催し報告をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、関係者のみでの開催としたため、市民に対して周知は行っていないところである。 ・４プロジェクトとも進行中のため、ホームページ等で実績等を公表してないので、プロジェクトが完了した際には市民への周知を行うようにする。	産業政策室
	②大船渡ふるさと交流センター発「三陸マリアージュ」創出・展開計画	・三陸マリアージュは、近隣市町村との差別化を図った上でのブランド商品、かつ、消費者が求める商品としてのアイデアはあるのか。	・大船渡市の地名は、首都圏においてほぼ認知されていないことから、商品開発は三陸レベルでの展開をベースに進めており、近隣市町村との差別化は図られていない。 ・新型コロナウイルスの影響により、テイクアウトやデリバリーといった中食のニーズが増加している。この消費者ニーズに対応するため、次年度以降、需要が増している中食業界についても掘り起こしを図る予定としている。	産業政策室
	③三陸沿岸に最適な周年生産施設型農業による夏イチゴ産地化計画	・三陸沿岸に最適な夏イチゴの生産とあるが、近隣市町村で生産されているイチゴとの違い、また、売りはなんであるのかを知りたい。	・国内のイチゴの生産は、冬から春にかけて収穫するものが主流となっており、生産量の９割以上を占めている。一方、夏イチゴは、夏から秋にかけて収穫するが、生産量が約 3,000ｔと供給不足となっているため、約 3,500ｔを海外から輸入している状況にある。 ・国内のイチゴは、両生産期間ともに１年２季どりで栽培されているが、本事業により生産される夏イチゴは、夏秋期を中心に２年８季どりで栽培していることから周年で生産が可能となるため、従来の生産方法に比べると高収益型の生産方法となっている。	産業政策室
		・イチゴのマーケットは、過飽和状態であり、また、輸送範囲が限定されるなどとされている。生産したイチゴのマーケットをどこに見据えての計画なのか。	・夏イチゴは、冬季に販売されているイチゴに比べると高価格商品であるため、首都圏の菓子製造業・食料品性造業等の事業者への販売を想定していると伺っている。	産業政策室
	④スポーツ・アクティビティを中核とした体験型交流創出・展開計画	・スポーツ・アクティビティを中核として、体験型交流を図ることは重要であるが、体験プログラムの周知はどのように実施するのか。	・指定管理者によるホームページの立ち上げやＳＮＳの活用、マスメディアの協力などを得ながら周知していきたいと考えている。	産業政策室

	計画名	質問等	回答	担当課等
地方創生拠点整備交付金	①碁石海岸観光拠点化推進計画	・大船渡市総合交流ターミナルの来場者や売り上げが伸び悩んでいる一方で、「浜の仕事体験」利用者数が増加している。バスツアーでの利用とあるが、目的が大船渡市なのか、あるいは、幾つかの地域を巡るツアーの一つなのか、また、年齢層を知りたい。	・「浜の仕事体験工房」の令和元年の利用数は、前年比＋620 人、約 20 倍に大きく増加した。工房を運営する法人担当者の営業活動により「わかめの芯抜き体験」が宮城県内の旅行会社の観光バスツアーに組み込まれ、同年 10 月から 12 月にかけて 17 回、計 500 人以上の利用があったことが主な増加要因となっている。 ・本ツアーは、岩手県沿岸南部である当市や釜石市等の観光地を１泊２日でめぐる行程で、大槌町内に宿泊し、「わかめの芯抜き体験」は２日目の昼に設定され、その後、碁石海岸レストハウスで食事する内容となっている。 １回当たりの平均利用者は 30 人、年齢層は 40 代～70 代である。	観光推進室
	②椿の里おおふなと拠点形成推進計画	・大船渡市総合交流ターミナルの来館者、売上、また、椿油搾油等体験者数が伸び悩んでいるようであるが、その理由を知りたい。	・来館者については、椿の開花時期以外の期間の来館者を増やすことが難しいため伸び悩んでいる。 ・椿油の搾油体験者については、各種イベント等で搾油体験を実施しており、指標の数字には届いていないが、年々増加傾向となっている。	農林課
		・大船渡市総合交流ターミナルの利用者と碁石レストハウスの利用者の違いを知りたい。	・大船渡市総合交流ターミナル施設は、椿の開花時期である 12 月から４月までの期間の利用者が多く、碁石レストハウスは、春から秋にかけての利用者が多い。 ・大船渡市総合交流ターミナル施設の利用者が、お土産の購入や昼食などで碁石レストハウスを利用することはあるが、碁石レストハウスの利用者が大船渡市総合交流ターミナル施設を利用することは少ないと考えられる。	農林課
	③スポーツ交流拠点形成推進計画	・道路の整備が大幅に進み、日帰りでの利用は、今後、益々、増えると考えられる。このような状況下、イベントの開催数を増やすことにより、利用者や収入が増加すると思われるが、何かしら方策を考えているのか。	・市サッカー協会とジュニア年代の大会誘致に向けて、協議する予定としている。	生涯学習課
		・旧甫嶺小学校に整備している甫嶺復興交流推進センターとの連携を図っているのか。	・今後、市関係部署や指定管理者と甫嶺復興交流推進センターの利用について、情報交換する予定である。	生涯学習課

総合戦略推進に係る意見提言等

項目	意見提言等
人材に関すること （地域おこし協力隊の活用）	・全国から「地域おこし協力隊」の様な形で優秀な人材を老若男女問わず公募する。 ・約 10 人～15 人程度を採用し、それらが所属するＮＰＯ法人を作ることも考えられる。 ・大船渡の物産を多方面に販売、国内の沢山の観光客を受け入れる受け皿を作り、同時に働き掛けを行い、集客を図るなど大船渡の物産に関わる人に利益をもたらすこと。最終ゴールは、大船渡市のファン・サポーターを沢山作ること。 ・地域おこし協力隊を一般社団法人大船渡市観光物産協会に配属させたり、協会に属するのであれば、企画開発のための別部門を新たに設けたり、商工港湾部とも連携を図りながら進めてはどうか。 ・地域おこし協力隊の任務として考えられるものは以下のとおり。 ※既存の大船渡物産の外への販売ネットを充実する。 ※貝毒で出荷出来ない様では困るので、例えば、陸上養殖等を含めた商品開発を行う。 ※新たなイベントの企画開発。例えば、金婚式の街。全国カキ剥き大会。全国手作り帆船模型大会（十分の一スケール）。全国素人イワシ料理コンテスト。夜市。テイスト・オブ・大船渡（大船渡を味わおう）など。 ※遊覧観光船の企画開発を行う。 ※珊瑚島の開発と企画など。 ・地域おこし協力隊は、３年程度は費用が国から交付税措置されるので、その後に、会社として独立経営を出来る様に持って行ければ、彼らは住民登録し大船渡市民として生活する。
関係・交流人口に関すること	・マルゴト陸前高田と連携し、大勢の修学旅行生を民泊で受け入れる。聞くところによると、昨年実績で、全国から約 5,000 人の来客があったという。各中学校や高校によって違うが、２泊３日～３泊４日の様で、３人一組で宿泊するが、民家には一泊につき一人 5,000 円が支給されるとのこと。マルゴト陸前高田では、大船渡市にも展開したいと考えている。
碁石海岸観光拠点化推進計画と連動した交流人口の拡大方策に関すること	・大船渡湾を遊覧する船が欲しい。 ・現時点で遊覧船として運行しているのは屋形船だけであるが、それを利用するのも一つの方法である。ただし、毎日の定期運航を希望する。 ・発着点を碁石海岸ではなく、キャッセン大船渡の前を発着点にし、待機所をキャセン大船渡にしてはどうか。碁石海岸だと、そこに行くまでハードルが高いと思う。 ・お客様に遊覧するためのハードルを出来るだけ低くするため、コースを分け、それぞれに料金を設定してはどうか。例えば、次の通りである（発着場所はいずれもキャセン大船渡前岸壁）。 ※20 分コースは珊瑚島を回って来る。900 円。 ※40 分コースは大船渡湾口をチョット出て、チョット荒波を体験。1,500 円。 ※60 分コースは大船渡湾口を経由して、湾内にてカキ棚やホタテ棚等で、その生育状況を体験学習。2,500 円。 ・最初から穴通磯をくぐる体験をする碁石のサッパ船の利用は、未経験者はハードルが高過ぎる。上記の経験があって初めて利用者にアピールすることが出来ると思う。 ・遊覧船が定期に出ることが出来たとしたら、将来的に、ふれあいランド尾崎岬に寄ることも出来るし、碁石海岸に寄ることも出来るようになる。そして、しばらく、ふれあいランド尾崎岬や碁石海岸で遊んだ後、帰りはその地から遊覧船でキャッセン大船渡前岸壁に帰って来ることも出来る。 ・大船渡湾内を遊覧することにより、海から見た大船渡の街並みを見ることが出来る。 ・珊瑚島開発も視野に入れることが出来る。 ・以上の通り、遊覧船を運行させることにより、多岐にわたる可能性が出て来るように思う。